

第 32 回 四極会 登山会

渡邊新十郎（大 16 回）

日時：令和元年 10 月 26 日（土）

山：大将陣山 909.8m

一尺八寸山 706.7m

大学 16 回の丸井弘美・元江夫妻の大分百山達成の祝福を兼ねた今回の登山には、四極会員 14 名、日本山岳会関係者 14 名の計 28 名が参加した。

大分駅上野の森口 7 時出発組と各自出発組が大分自動車道日田 IC 出口のコンビニ駐車場に集合し、大将陣山登山口を目指す。

9 時、登山口手前で車がスリップして進めなくなり、道路端に駐車して歩き始めた。簡易舗装道路の急坂は落ち葉が多くて湿っぽい。9:40、所小野不動産に到着。参拝後 9:52 に再出発し、砂防ダム脇の荒れて滑りやすい急坂を進む。10:12 小休止後緩い上り坂を行くと 10:26 頂上着。

山頂は風が強く、薄いガスで覆われていて寒いので、皆一枚羽織る。いつもの通り加藤英彦先輩（大 14 回）の音頭で万歳三唱をし、丸井君持参のシャンパンで百山登破を称えた。



11:00 下山開始、11:29 所小野不動産で三々五々昼食。この時配られた赤飯を皆美味しく頂く。

12:05 難読日本一の^み一尺八寸山^{おうやま}に向かい、12:45 登山口到着。杉林の緩い上り坂を行くと、あっという間の 45 分で山頂着。14:19

に登山口に戻り、皆、二座も登った疲れを感じさせず解散。一部の人は天ヶ瀬のバラ湯に入浴し帰宅した。さらに有志 20 人は丸井夫妻のお祝いをサッテジャワにて開催、美酒に酔う。

この機会に、16 回の山登り活動を紹介したい。階の名称は一六^{いちろく}山の会。平成 25 年 11 月 12 日に 6 人にて伽藍岳に登ったのがスタート。同年 10 月の四極会祖母山登山時に加藤先輩から井上理君（大 16 回）に大分百山の本が贈られたのがきっかけだ。16 回生で相談し、井上君を幹事役に月 1 回程度登山することになった。参加者は約 10 人で 2 年半くらい経った頃、年 1 回は一泊登山をしようとの声上がり、経験豊富な定松亨君が幹事役と相談してコース設定、宿の手配をすることに。手始めの第 32 回目・平成 28 年 9 月四国石鎚山に続き、第 43 回・平成 29 年 10 月は霧島連山～高千穂峰、第 53 回・平成 30 年 9 月雲仙普賢岳と登ってきた。そして令和元年・第 66 回は 10 月 16 日～18 日に紅葉を期待して伯耆大山に行く。紅葉にはまだ早かったがナナカマドの赤、木ツツジの青、ダイセンキャラボクの柿色の取り合わせが印象に残った。

第 33 回・由布岳からは城井勉君が幹事役を引き継いでいる。

丸井夫妻は平成 25 年の歩こう会で一六山の会を知り、四極会の登山会や霊山水曜登山にも参加して山の魅力に惹かれていった。好きな海外旅行にも登山を取り入れ、日本山岳会会友にもなる。平成 30 年末には大分百山の登頂 80 座に達する。難しい山も山岳会の人や定松君の応援を得て踏破していった。一六山の会でも夫人の元江さんは自家製ビワのブランデー煮、栗の渋皮煮、おはぎ等、季節のものを振る舞ってくれるありがたい存在。丸井君、元江さんをこれまで以上に大切に山登りを続けましょう。

蛇足。一六山の会では定松君が世話をする飲み会も 2 か月に 1 回程度開いている。